

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370500377		
法人名	社会福祉法人新生寿会		
事業所名	グループホーム新賀 きのこのき		
所在地	岡山県笠岡市新賀3220-28		
自己評価作成日	平成22年3月2日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・本人、またご家族の意思を大切に、その人らしく生活をされている。 ・出来ることやしたいこと、したいと思っていることに対し、必要なサポートを行っている。 ・「きのこのき」を選んで良かったと思って頂ける生活を提供できるよう心掛けている。 ・ご家族の方との信頼関係を大切にしている。 ・スタッフ同士の信頼関係

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370500377&SCD=320
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山県岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成22年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>このホームは設立されてもう丸10年になる。利用者も入所すると病気や死亡して退所する人も居るが、それ以外では殆んど出る人はいないし、職員もこのホームに配属されると安定しているので、家族とのお付き合いも長く続けられ、本人、家族と職員が一体感のある家庭的な生活が保障されている。この周辺に4軒のグループホームがあるが、それぞれのホームは独自性のホームを作り、ゆったりと穏やかな生活と言うフレーズにふさわしい雰囲気や漂っているホームである。特別に何かをするという事ではないが、利用者の表情や心が沈んでいる訳ではなく職員と共に笑顔で話をしたり、生活を楽しんでいる様子からは心地良さを感じさせてくれている。安心して暮らせるホームと言える。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない 	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今までの生活を崩すことなく、その方の気持ちを理解しながら個人の価値観を尊重するケアを提供いたします」という理念の下、一人一人の生活を大切に考えている。よりよい生活をして頂く為に、管理者出席でミーティングを行っている。	リビングルームの壁に「理念」と「きのこのき」の頭文字がからとった「生活モットー」が掲示してあって、職員も利用者あるいは家族も利用者の方での生活ぶりが確認でき、いつでもケアのあり方を振り返ってみることができる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地や条件が悪く難しいが、運営会議を通じ、地域のサロンへ参加をさせてもらっている。また、今以上に地域へ出ていきたいと考えている。	この立地や病院と母体の老健施設の運営状況から、ここで地域とは何を指すのかということも考えてみると、地域とは笠岡市とか井原市一体とも考えられるし、近所と言っても周囲には見当たらない。このホームの場合地域との関わり方を検討すべきと思う。	グループホームの場合、一般的には地域との関わりを重要視しているのは当然であるが、このホームのように大きな病院や施設と共に一つの山全体を施設として立地している場合は地域の定義をしっかりと定めておいておく必要もあると思う。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議を行い、何が出来るか現在検討中。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域のサロンに参加した際に、地域の方と話をしているが、まだどのように生かしていくか検討中。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。民生委員や家族が出席して、近所の4つのグループホームが合同で行っているが、会議の内容と運営の仕方については地域の定着も含めて一考を要すると思う。	運営推進会議には当初平成19年の初回のみ笠岡市から職員が出席していたようだが、その後は出席された記録はない。今後は是非出席され、このホーム(4つのホーム)の運営推進会議のあり方についても検討して欲しい。(外部評価機関意見)
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員に参加をお願いしたい。	ホームの運営について何かあれば市とも相談したり、届出とか手続については老健施設にある事務所で行われていることが多い。ホームの管理者や母体として働きや機能がホーム単体とは考えられない面もあるので、母体の機能と共に考えてみなければならないが、ホームの運営と市との関係は問題ない。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また、身体拘束について、これからも皆で勉強をしていきたい。	単純に身体拘束の防止を考えれば、言葉使いや直接身体に関する拘束の面では職員は日頃から話し合ったり、勉強している。ここでの利用者は安全で健康で安心して家庭的な生活が出来る事が第一義である。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフのコミュニケーションを大切にし、意見・情報交換を行っている。今後も、しっかりと意見・情報交換を行っていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ理解が不十分に感じる部分があるので、これからもしっかりと勉強を行っていくことが大切と考える。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前(見学、相談時)から説明をし伝え、家族からの質問にもきちんと対応している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方とのコミュニケーションを密にとり、なんでも相談出来ている。受けた相談については、皆で話し合い対応を行っている。	日常の家族と職員で交わされている「相談記録」がある。相談内容や職員の対応が直接面接している時、電話でやり取りしている様子が実際の会話体で詳しく記述されており、将来共このホームでのことが根拠として保存される。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとしっかり話を行っている。ミーティングを行い、意見を伝えている。	6人の正職員で構成され、職員も殆んど移動することなく安定して気心も知り尽くした仲間である。日頃の話やミーティング等で話し合っ何事も決められるし、管理者も出席するので、職員の声はしっかり母体にも伝わっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフとしっかりと話が出来る時間を設けている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内での勉強会に参加したり、積極的に外部の研修会に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加したり、他のグループホームとの交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、入所者、家族の方としっかりと話をし、少しでも不安を取り除けるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方に思いを伝えてもらうように心掛け、話をしている。 面会のお願ひもしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なかなか本人の思いを伝えてもらえないので、家族のかたの思いしっかりと聞きプランに反映している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どの入居者に対しても、「大切な家族」という思いでケアを行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来て頂きやすい雰囲気作りをし、面会時には家族としっかりと話をし相互理解を深めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活歴を作成している。 家族の方との連絡を大切にしている。	利用者も一旦入所すると病気がひどくならない限り退所することはないので、ここで安定した生活が続けられるのですっかり馴染んだ仲間である。新しい人が入所した時はしばらく職員が寄り添って馴染めるように心遣いをする。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と一緒に過ごしたり、落ち着く場所づくりを大切にしている。 また、一人で過ごす時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後でも、「何かあればいつでも連絡、相談をして下さい。」とお伝えしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を活用している。 しっかりとコミュニケーションをとり、不安を取り除くようにしている。	バリデーション手法もしっかりと教育及び体験をしており、日頃の利用者との関わりやコミュニケーションの中から本人の気持ちをしっかりと把握している。又、入所すればその人の人生歴も作っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族の話聞き、思いや希望の把握をしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日1日をしっかりと関わり記録し、小さな変化に気付くよう努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活、本人や家族の意見を基にカンファレンスをし、介護計画を作成している。	入所すると、その人の担当者が決まり、最初のヒヤリングや日常の関わりからアセスメントも主任と共にしっかり行っている。計画と記録も要点を絞り、それぞれの人の生活の状態や健康に関する管理をしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に表情、言葉など、本人のことがよく分かるように記入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の言葉や家族の思いをしっかりと聞き、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだ地域に出られていない。 これから色々な方法を考えていきたい。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院はあるが、かかりつけ医がいる方には受診を支援している。	このホームの主治医はエスポアール病院の院長で、月2回はホームを訪れ利用者全員の様子を看ている。何かあれば病院にすぐ連絡できるし、看護師がすぐ来て様子を見てくれる。病気の状態により専門医への紹介も直ぐにしてくれるので安心できる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	しっかりと情報を伝えコミュニケーションを取っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院中、退所時、しっかり家族・病院関係者との話し合いの場を持っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者にグループホームで出来ることを伝え、家族の思いを聞き、必要に応じてその都度話し合いを行っている。	利用者は病気で入院して医療措置が必要な場合を除いて単純な老化によって精神的あるいは身体的に重度化していく場合はいつまでもケアと生活は続けられる。病院に入っている場合でも医療的に手の施しようがなくなった場合は、ホームに帰って最期まで看取る場合もある。自然死で看取った経験はある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	小さな変化に気付くようにしている。 今後も研修等の参加し、対応の仕方を身に付けていく。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。 避難についてのマニュアルを作成している。	母体の老人保健施設と一緒に消火及び避難訓練をしている。自動通報装置やスプリンクラーの設置も完了した。万一出火した場合は近所の施設と病院に昼夜職員がいるので、施設全体に初期対応ができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣い、声の大きさ、トーンに十分に気を付けている。 個人情報の扱いに配慮している。	利用者への対応の仕方及び声掛けや寄り添いについては、この母体の病院や老人保健施設での研修や勤務経験の中でしっかりと身に付けた職員ばかりの集団である。利用者に何気なく寄り添い話しをしている様子は自然である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しの中で思いに気づき、また家族の方の思いを聞き、何を望んでいるのかを把握して、実現に向けて努力している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々状況ですぐに対応出来ないこともあるが、なるべく希望に添えるようにしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を持って来て頂くよう、家族にお願いしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中から献立を考えたり、旬や行事を大切にしている。 準備や片づけについては、一緒にすることを望まなかったりと難しくなっている。	訪問した時は男性一人、他は女性であったが、「私達はもう何もしたくない。ここでの楽しみの一番は食事です。皆で楽しく食べられる食事が一番美味しい」と職員も一緒に食べるこの時間をゆっくりと過ごしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量に変化がある人は、しっかりと記録に残している。 食事は皆一緒だが、それぞれに量を変えたりと工夫をしている。 水分には十分に気を付けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく自分で行えるよう声掛けをし、必要に応じて介助を行っている。 口腔ケア用品は、それぞれに適したものを使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	言動や些細な動きのサインにより気付いている。 さりげない声掛けを心掛けている。	居室のトイレで便座に座って排泄することを基本としている。便器に座って出た時は気持ち良さそう。排便は食事やマッサージ、運動も必要であるが、きなこやオリゴ糖、バナナジュースなどで排泄しやすいようにも気を使っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分、おやつ等工夫し、併せて運動や腹部マッサージで自然排便が行えるよう促している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1人1人に合わせる為、日時は決めていない。 介助者の人数も、安心、安全に入ってもらえるよう、その人に合わせて変えている。	入浴するまでの準備が面倒くさい人もいるが、浴槽に入ってしまうと皆気持ち良くなって満足してくれる。手足をマッサージしながらのコミュニケーションは最高である。入浴のパターンを見ながら、入浴に声かけしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活ペースに合わせ、少しでも快眠出来るよう、寝具選び、清潔保持に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類のをしっかりと理解しているかは不安がある。これからもしっかりと理解をしていくよう心掛けていきたい。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換に散歩に行ったり、家族の方の協力も得ながら外食している。 また気の合う方と過ごす時間を大切にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく希望に応えたく努力はしているが、出来ない時もある。これから少しでも	天候は良ければホームの前の庭で散歩しながら日光浴をする。足腰がしっかりしている人にはホームの周辺を歩いたり、桜が咲けば病院の花を見に行く。たまにはドライブしたり季節的に遠出することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理が出来る方がいないので、全て施設管理になっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時にはしている。また、家族の方にもお願いしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光の加減、温度等に気を付け、快適に生活出来るようインテリアも工夫をしている。 リビングに入居者の作品を飾っている。	木をふんだんに使い、造作された和装のリビングルームでソファに座ったり、畳敷きの間でコタツに入って寛いで過ごすことが多い。このホームには周辺のホームからも集まれるホールがあり、歌会を月に2回催している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でゆっくりと過ごしたり、気の合う方とゆっくり過ごせるよう家具の配置を工夫し、居場所の確保をしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも安心して心地よく生活して頂くために、居室の家具やインテリアは家族の方にお願いし、使用していたものを持って来て頂いている。	居室部分はリビングルームとは別棟にあり、それぞれの趣が違う造作も施され、居室にはトイレと洗面が完備されている。それぞれの方は自分の部屋で9年以上も住み慣れた人も居て、それぞれの部屋づくりをして自分の生活の場ができています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	インテリアや家具の配置を工夫し、転倒防止に気を付けている。 居室には表札を掛けている。		